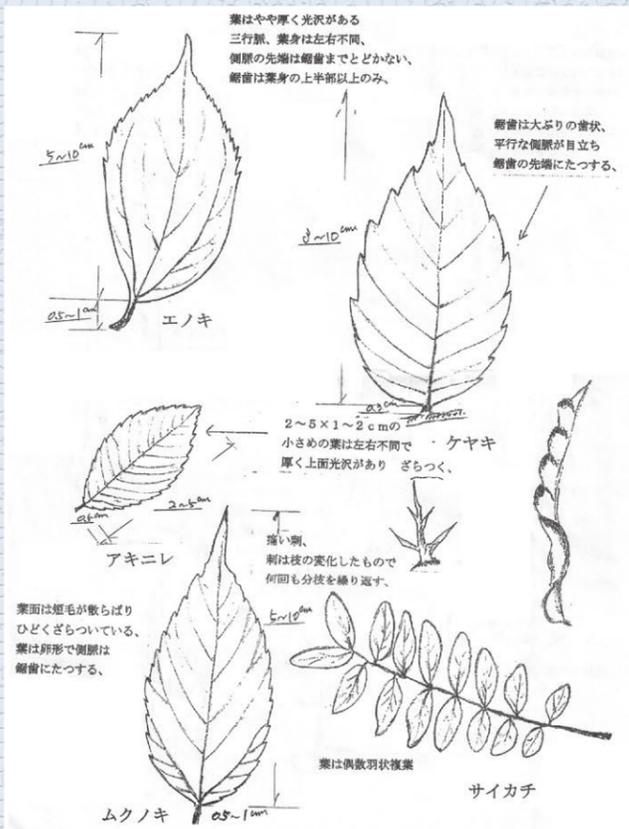


芹川の自然ウォッチングガイド

けやき道の樹木



芹川の水鳥

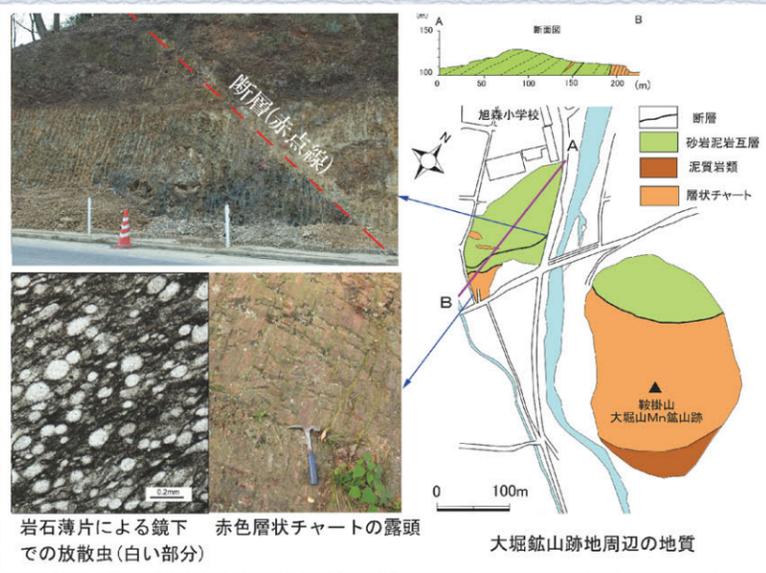
芹川では、一年を通してカルガモ、カイツブリなどの水鳥が見られます。特に、秋の終わりから冬にかけては河口付近を中心に、コガモやオナガガモをはじめとする多くの種類の冬鳥を見ることができます。



大堀山の地形と地質

現在の芹川の下流部分は、約400年前に人工的に作られた川ですが、その川底には砂や礫の堆積物とともに、ところどころに元々の地層である古琵琶湖層群の青みがかった粘土も見ることができます。また、河原には上流から流されてきた石灰岩の礫も見ることができ、うまくいけば古生代のフズリナやウミウリなどの化石が入っているかもしれません。

ところで、芹川の中流にあたる旭森小学校隣の大堀山には、中・古生代と考えられるチャートがあり、中には放散虫と呼ばれるプランクトンの化石が含まれていますが、残念ながら変成作用を受けて再結晶が進み、化石の保存状態が悪いため種類まではわかりません。また、近くの鞍掛山には、かつてマンガン鉱石を採掘していた大堀山跡地があります。一時は、滋賀県最大のマンガン鉱石の産出量を誇りましたが、昭和50年代初め頃に閉山してしまいました。また、この近くの芹川の岸辺には、今の桜島火山のもととなった始良カルデラの約3万年前の大噴火による火山灰層があり、火山ガラスや花粉化石等が見つっています。



フィールドマナー（自然観察時のお願い）

- ① 野外活動、無理なく楽しく
ゆとりを持った計画で、安全に自然に親しみましょう。
- ② 採取はしない、自然はそのままに
動植物の採集、採取はご遠慮ください。とつていいのは写真だけです。
- ③ 静かにそっと
大きな声や音は立てず、そっとやさしく観察しましょう。
- ④ 危険な動物に注意
スズメバチ、マムシなどに出くわしたらそっと離れましょう。
- ⑤ ゴミは出さない、すてない
ゴミは必ず持ち帰る。一人ひとりの心がけで美しい自然を守りましょう。

彦根市キャラクター ひこにゃん



彦根城オニバスプロジェクトの
マスコットキャラクター
彦鬼(げんぎ)くん、美鬼(みき)ちゃん



芹川の自然ウォッチングガイド
https://www.city.hikone.lg.jp/kaku-ka/shimin_kankyo-15/2_2/9/serikawa/index.html

編集・発行

彦根市、快適環境づくりをすすめる会
彦根自然観察の会
令和5年3月発行



芹川の自然と歴史

彦根に城下町ができる前の芹川は、現在より北を流れ、松原内湖へと注いでいました。今の芹川の位置には、本流から枝分かれした支流が流れていたようです。約400年前、彦根城が築城され、城下町が整備されたときに、芹川は現在の河道に付け替えられました。城を守るための防壁をかねていました。

「芹川のけやき並木」として知られる芹川堤の並木には、その当時植えられた樹木が残っています。当時植えられたのは、ケヤキ、エノキ、アキノレなどで、樹の根によって堤防をより丈夫にしようとして植えられたと考えられます。

ケヤキやエノキは、もともと湖東平野に広く分布する樹種です。植えられた樹木なのに自然に溶け込んでいるのは、風土に適した樹種が植えられた結果です。樹齢からしてそれより後に植えられた桜なども調和した、親しみのある自然景観をもたらしています。

せせらぎには、アユやオイカワ、ウグイなどの魚類が見られ、コサギや

ダイサギ、セグロセキレイ、カワセミなどの水辺の鳥たちも多く見られます。重要なのは、芹川のせせらぎと堤防にあるこれらの樹木を含めた芹川全体が、多様な生物が息づく空間(ビオトープ)を形成し、市街地の中に豊かな自然環境をつくっていることです。

また、この自然の空間が、芹川の流れて沿って鈴鹿の山々からびわ湖へとつながっていることにより、野鳥をはじめとする多くの生物の通り道となっています。芹川周辺の住宅街に、通常は都市部には見られないメジロやシジュウカラ、ウグイスなどの小鳥がやってくるのはそのためです。芹川並木にエノキやムクノキなど実のなる樹木が多いことも、小鳥たちが多く見られる理由の一つです。

樹齢300年を超える大木が感じさせてくれる趣は、彦根市の歴史的な風土ともまた調和しています。

芹川の自然ウォッチングマップ

芹川の魚

芹川には、びわ湖とのつながりの中で多くの種類の魚たちが棲んでいます。春先から夏にかけては、コアユやウグイ、オイカワ、ハスがたくさん集まってきました。夏の終わりにウロリ(ヨシノボリの稚魚)がたくさん見られ、秋になるとびわ湖の固有種のビワマスが産卵のため遡上してきます。(産卵期のアユ、ビワマスの捕獲は条例で禁止されています。)



中山道・大堀山周辺の植物

オドリコソウ シソ科
春、白からピンクの花が咲きます。花が笠をかぶった踊り子の姿のようです。

コンロンソウ アブラナ科
芹川上流の山地に育つ多年草です。春、十字の白い花が群生して咲きます。

カラシナ アブラナ科
菜の花やアブラナと似ている花は春の訪れを告げます。種子からカラシができます

ミソソバ タデ科
秋、ピンクの小さな花が十数個丸く集まって咲きます。コンペイトウ花と親しみを込めて呼ばれます。



けやき道の植物



ケヤキ ニレ科
推定樹齢約300年以上のものが30本近くあります。樹形は扇形を半開きにしたような姿です。

エノキ アサ科
葉全体の形は、左右違っているので見分けやすいです。ヤドリギがよく付いています。

アキノレ ニレ科
初秋に小花が咲いたと思ったら、すぐに結実します。葉は丸くて小さいです。

サイカチ マメ科
幹や枝に大きくて鋭い棘があります。棘は枝の変形したものです。サボニンを含み石鹸の代用として使われました。

ムクノキ アサ科
葉がざらざらしているので研磨剤として利用されます。樹名は黒い実をムクドリが好んで食べるからとも言われています。

サクラ バラ科
ソメイヨシノがほとんどで、昭和初め頃に植栽されました。

ツルヨシ イネ科
地表を這い、節から根を出し、新しい株をつかって増えます。流れが速い川に多く見られます。

ケヤキ、エノキ、ムクノキなどの樹木は江戸時代の川の付け替えが行われたときに、両側に根が張ることによって土を固める目的で植えられたものが時代を経て今も残っています。他にオニグルミやヌルデ、クマノミズキなどもみられます。

芹川の野鳥

